

第 8 若潮丸 大型さんま棒受網漁船がアカイカ釣り漁業の兼業実証調査へ

5 月 16 日、大型サンマ業界の将来を担いイカ釣り漁船に改造された大型サンマ棒受網漁船「第 8 若潮丸」(199 総トン)がアカイカ漁業兼業に関する実証調査のため、北太平洋へ向けて根室花咲港から出漁した。

出漁前には、水産研究・教育機構開発センター、水産庁資源管理部から実証事業に関し①大型サンマ漁船にイカ釣り漁船と同等の設備を搭載しアカイカの主漁場である北太平洋公海域で漁獲実証調査(試験操業)の実施②サンマ漁業とイカ釣り漁業の兼業化の可能性を検証・評価③北太平洋での操業—などに加え、注意事項を含め説明を受け、質疑応答で理解を深めた。山下秀幸開発調査センター所長は「安全第一でアカイカ釣り本格的実証事業(試験操業)の成功を祈念します」とあいさつした。

サンマ棒受網漁船をイカ釣り漁船に改良

水産研究・教育機構開発調査センターは、令和 5 年度補正予算による水産庁委託事業「不漁に対応した操業体制緊急構築実証事業」で、2 月 21 日から 3 月 10 日まで、大型サンマ漁船のアカイカ釣り兼業のための漁獲実証調査を三陸沖で実施した。この調査ではサンマ操業に使用する LED 漁灯と 5 台の自動イカ釣り機で操業し漁獲があったことから現業操業の実現性が示された。

この結果を踏まえ、実証調査第 2 弾としてサンマ操業用の集魚灯の竿から LED 漁灯を外して船体上部に設置。さらに、自動イカ釣り機を 20 台に増設しイカ釣り操業中の船体を安定させるパラシュートアンカーを装備し、イカの選別作業台なども改良設置して試験操業に臨む予定。過去のイカ釣り漁船のみの実績、サンマ棒受網漁船のみの実績と比較することで周年稼働や収益性向上に向けた課題を整理し、サンマ・アカイカ漁業兼業化で漁業経営に及ぼす効果を検証・評価する。

尾本俊幸漁労長は「大型サンマ棒受網漁船の将来がかかっているアカイカ漁業の兼業・実証事業の成功に向けて乗組員一丸となって頑張ってきます」と力強く語り、多くの関係者が見送る中、北太平洋の大海原へ出漁した。

「海員だより」